

社会科学学習指導案

指導者 吉田 竜二郎

1. 日時 平成18年7月7日(金) 1校時
2. 学級 上田中学校2年4組 男子19名 女子16名 合計35名 南校舎2階2年4組教室
3. 主題 第2編 第3章 世界の国々の調査 「比較や関連の視点から調べよう」
～地域との結びつきを強めるフランス～

4. 主題について

第2編「地域の規模に応じた調査」の大単元は、1年生で「身近な地域」や「都道府県の調査」において、地域的特色を追究した学習をふまえて、世界の国々からいくつかを取り上げ、国家規模の地域的特色をとらえさせようとするものである。学習指導要領(地理的分野)においては、目標の(2)に「日本や世界の諸事象を位置や空間的な広がりとのかわり度でとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連づけて考察し、地域的な特色をとらえるための視点や方法を身に付けさせる」と示されている。さらに内容(2)「地域の規模に応じた調査」のウにおいては「それぞれ特色ある視点や方法で追究するようにすること」とあり、国家規模の地域的特色をとらえるために、貿易や産業、国家間の統計資料等、この規模の地域になってはじめて作成されるような貿易等の資料を基に追究、考察することが求められている。フランスはEU内の他地域のみならず、アフリカ等とも交流があり、比較しながら地域的特色を学習するのに適した教材となっている。

生徒は、おおむね積極的に学習に参加しようとしており、男子を中心に発言も多い。しかし、思考を伴う発問や自分なりの考えを問うと、まとめて発言をするまでには至っていない。フランスの学習を進めるにあたっては、断片的に首都がパリであることやエッフェル塔などの有名な建物や地名、ぶどうやワインの産地として有名であることなどは知っているが、複数の知識から国家的規模の地域的特色を発想することは難しい状況である。

したがって、今までのアメリカや中国の学習を通してつかんできた、自然や産業、世界とのかわりなど国家的規模の特色のとらえ方を参考にしながら、資料から分かったことをつなげたり、他国との比較や関連から考察したりする学習を通して、フランスの地域的特色をとらえる力を育てたいと考える。

5. 指導と評価の計画(別紙)

6. 本時の達成目標

| | |
|----------------------|--|
| 社会的な事象への関心 ・意欲・態度 | 統計資料から、フランスの農業や工業の特色をとらえようとしている。 |
| 社会的な思考・判断 | フランスの農業は、アメリカと比較してどのような特色があるか、また、貿易の様子から、ヨーロッパならではの産業の特色について書いて説明している。 |
| 資料活用の技能・表現 | 小麦の自給率のグラフやフランスの貿易の表等から、フランスの農業や工業の特色について、読み取ったことを書いている。 |
| 社会的な事象についての知識・理解 | フランスがヨーロッパ各国に食糧を供給していることや、ヨーロッパとつながりの深い工業の特色を発表している。 |

7. 本時の指導の構想

(1) 指導構想及び留意点

生徒たちは、アメリカの学習を通して「企業的な農業」を、中国の学習を通して多くの生産が国内で消費される農業について学んでいる。冒頭の「小麦自給率」のグラフからは、アメリカと比較する視点から、なぜこんなに自給率が高いのだろう、という疑問から、アメリカと比較しながら調査をする必然性が生まれると考える。資料の読み取りを通して、アメリカとは異なるフランスの農業の様子や、ヨーロッパと深く結びついている工業等のあらましが浮かび上がり、フランスは、ヨーロッパの一員として様々な産業が発達していると気づき、アメリカとの比較、ヨーロッパの国々との関連という視点で学習することにより、目標を達成できると考える。

(2) かわり合いを生かす手だてについて

本単元は、世界の国を取り上げて学習する3番目の単元であり、既習の調べ方や既習事項としてのアメリカや中国の特徴等が「よりどころ」となって調査が行われ、わかったことを他国との比較や関連の観点から発表することによって、資料とのかわり合い、そして読み取りを発表し合う他者とのかわり合いを通して読み取りを深め、なぜヨーロッパの国はお互いに深く関わり合っているのかという新しい疑問から、次時のEUについての学習につなげようと考えている。

9 . 本時の展開

A 達成度 B 学習速度 C 取り組み方(学習の仕方)
D 見方・考え方 E 興味・関心 F 生活経験

| 段階 | 過程 | 時間 | 学 習 活 動 | 評価の視点・方法 | 指 導 上 の 留 意 点 | 学習形態・ 教材・教具 |
|--------|--|---------|---|--|---|--|
| 導 入 | 課 題 設 定 | 8 分 | 1 既習事項の想起をする。 2 小麦の自給率のグラフを見て読み取ったことを話し合う。 3 学習課題を設定する。 学習課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なぜ小麦の自給率が高いのかを探り、フランスの産業の特色はどのようなものか調べよう。</div> | | 1 フランスで生産の多い品目（小麦、チーズ、自動車、観光客）について確認する。 2 小麦の自給率が大幅に100%を上回っていることから、なぜこんなに生産が多いのかという疑問を持たせる。 | T P 小麦の自給率 |
| 展 開 | 課 題 追 究 課 題 解 決 | 35 分 | 4 予想をする。 ・アメリカのような企業的農業が行われているから。 ・農業に適している土地で大量に生産しているから。 ・自給率の低い国に輸出しているから。 5 資料を読み取り、分かったことをノートに書き出す。 6 調べて分かったことを発表する。 7 調べて分かったことをもとにして、フランスの産業の特色を話し合う。 | [資料活用の技能・表現] フランスでは気候に合わせて混合農業や地中海式農業などにより小麦やとうもろこしなどをヨーロッパに輸出している。 記述内容・発表内容 A：穀倉地帯、お互いに助け合う C：100%を越えた分をどうしているか考えさせる。 [社会的な思考・判断] フランスは、ヨーロッパに食糧を供給するとともに、ヨーロッパの国々との結びつきを強めながら自動車やワイン、化粧品などの工業も発達させている。 記述内容・発表内容 A：ヨーロッパの中心、つながり、穀倉地帯 C：輸出先をアメリカの時の資料と比較させ、ちがいを書き出させる。 | 4 . A E F 既習事項や自分の知識など、自由に発表させる。 ・アメリカの既習事項 ・既知の知識（生活経験） 5 . B C D 輸出先を確認し、アメリカとのちがいを考えさせる。 7 A D お互いの発表から、フランスがヨーロッパ中心の貿易を行っていることを確認する。 | 教科書 ・ヨーロッパの農業地域 資料集 ・穀物自給率 プリント資料 ・農業人口と農地面積 ・地域別の貿易相手先 ・貿易と国際収支 ・主要国の相手先別貿易 |
| 終 末 | ま と め | 7 分 | 8 本時のまとめをする。 ・国の特色を調べるには他国との比較や関連を調べると良いことを確認する。 9 次時の予告をする。 ・EUとは何か、どのような組織かについて学習することを知る。 | | 8 . A D ・まとめた学習内容を知識体系に位置づけるように、良さを確認する。 | |

指導と評価の計画

| 2 年 社会 | | 単元(題材)名 地域との結びつきを強めるフランス | | | 総時間 4時間 扱い | | |
|--|---|---|---|--|--|---|--|
| <p>学習指導要領の指導事項 (2) 地域の規模に応じた調査 ウ 世界の国々 世界の国々の中から幾つかの国を取り上げ、地理的事象を見いだして追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。</p> | | | | | | | |
| 単元の目標 | 主な学習活動 | 評価規準 | 社会的事象への関心・意欲・態度 | 社会的な思考・判断 | 資料活用の技能・表現 | 社会的事象についての知識・理解 | |
| 世界の産業や貿易の統計表などから、フランスがヨーロッパの中でどのような役割を果たしているかなど、他の国々との地域間の比較や関連の視点から調べる活動を通して、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けることができる。 | フランスの地形図、気候区分図、人口分布図などを重ね合わせ、自然の多様性とそれに結びつく人々の生活の様子を読み取る。 フランスの人口構成から民族や文化の特色を考える。 農業地域、工業地域の分布図や統計等からフランスの農業と工業の特色をとらえる。 | B = 「おおむね満足できると判断される状況」 | フランスに関する地図や統計、その他の資料を用いて調査に取り組み、その地域的特色をとらえようとしている。 | フランスの地理的事象を位置や空間的な広がりとのかかわりで見え、学習課題に対し、明確な根拠をもとに結論を出すことができる。 | フランスの特色をとらえるために、地図の読み取り、統計のグラフ化や地図化等を通して、まとめたり発表したりすることができる。 | フランスの地域的特色を理解し、その知識が位置や空間的な広がりに着目したものであり、なおかつそれをまとめる方法が身についている。 | |
| | | A = 「十分満足できると判断できる状況」の例 | フランスの地域的特色をとらえるために地図や統計、その他の資料を用いた調査に高い関心をもって、その地域的特色をとらえようとしている。 | フランスの地域的特色を、位置や空間的な広がりとのかかわりで見え、それを環境条件や人々の営みなどに関連づけて的確な複数の視点から考え、明確な根拠で説明できる。 | フランスの地域的特色をとらえるために様々な視聴覚資料を活用したり、地図や統計から有用な情報を適切に選択し発表している。 | フランスの地域的特色を地域の自然的・社会的・文化的条件や他地域との結びつきから考え、まとめている。 | |
| | | C = 「努力を要すると判断される状況」の生徒への手だての例 | フランスの地域的特色をとらえるために、地図や統計から気づくことを挙げさせ、書き出させる。 | フランスの地域的特色を押さえる視点を明示し、収集した資料の持つ意味を考えさせ、他の意見を参考に考察が勧められるようにする。 | 資料の中で、地域的特色を考察するために必要な情報は何か、他の発表から考えさせたり疑問点を挙げさせたりする。 | フランスの地域的特色を調査した資料から読み取った事項を使用してまとめさせる。 | |
| 段階 | 時 | 主な達成目標 | 主な学習活動 | 社会的事象への関心・意欲・態度 | 社会的な思考・判断 | 資料活用の技能・表現 | 社会的事象についての知識・理解 |
| 1 | 1 | フランスの地図や統計資料を読み取り、他国と比較してフランスの特色を説明できる。 | 地形図、気候区分図、人口分布図等から、他国と比較してフランスの特色を調べる。 | 様々な資料からフランスの特徴的な事項を見つけようとしている。 | | 地形図、気候区分図、人口分布図等から、他国と比較してフランスの特色を発表している。 | 地図や統計資料から、首都・地形・気候等、フランスの特色を書き出している。 |
| | 1 | 人口構成やフランス文化について調べ、民族や文化の特色を説明できる。 | 人口構成や文化の広がりから、フランスの文化が世界に与えている影響を調べる。 | フランスの文化の広がりから、フランスの文化が自分の生活との関わりで見えようとしている。 | 人口構成や文化の広がりから、フランスの文化が世界に与えている影響を説明している。 | 人口構成や文化の広がりから、フランスの文化と世界との関わりについて発表している。 | 資料から人口構成や文化の広がりの特徴について書き出している。 |
| | 1 (本時 3 / 4) | フランスの産業は、ヨーロッパの国々と密接なつながりがあることを説明できる。 | フランスの農業や工業の状況から、他国と比較してどのような特色があるか調べる。 | 統計資料から、フランスの農業や工業の特色をとらえようとしている。 | フランスの農業は、アメリカと比較してどのような特色があるか、まあ、貿易の様子から、ヨーロッパならではの産業の特色について書いて説明している。 | 小麦の自給率のグラフやフランスの貿易の表等から、フランスの農業や工業の特色について、読み取ったことを書いています。 | フランスがヨーロッパ各国に食糧を供給していることや、ヨーロッパとつながりの深い工業の特色を発表している。 |
| | 1 | フランスが中心になって、EUという組織にまとまる理由を説明できる。 | EUについての資料から、ヨーロッパがまとまる理由をまとめる。 | EUがまとまる理由を追究しようとしている。 | EUについての資料から、ヨーロッパがまとまる理由をまとめている。 | 資料から、EUの目的を読み取っている。 | EUについての資料から、成り立ちや目的、課題をまとめている。 |